大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2021年第22週(5月31日~6月6日)

今週のコメント

~新しい生活様式の実践~ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

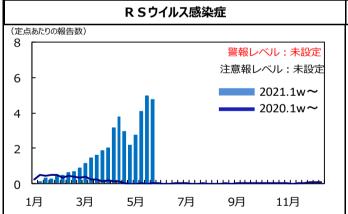
「RSウイルス感染症 前週よりも減少」

第22週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,914例であり、前週比3.0%減であった。定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.84、3.12、0.73、0.53、0.35である。

RSウイルス感染症は前週比4%減の938例で、南河内8.81、大阪市南部8.28、大阪市西部8.20、泉州6.79、三島5.00であった。

感染性胃腸炎は前週比7%減の605例で、泉州5.47、南河内4.63、大阪市南部4.33である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比4%減の141例で、中河内2.35、大阪市南部1.56、南河内0.69であった。 咽頭結膜熱は前週比30%増の103例で、大阪市北部1.29、大阪市南部0.78、北河内0.68である。



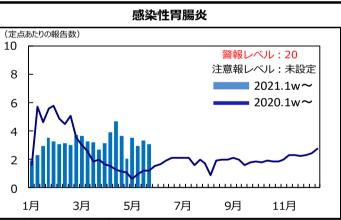


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2021年 第22週5月31日~6月6日)

第22週 の順位	第21週 の順位	感染症	2021年 第22週の 定点あたり 報告数	前週比增減	2020年 第22週の 定点あたり 報告数	2021年第22週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	4.84	4%減	0.01	1歳_27%
2	2	感染性胃腸炎	3.12	7%減	1.19	1歳_19%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.73	4%減	0.34	2歳_17%
4	4	咽頭結膜熱	0.53	30%增	0.03	1歳_38%
5	5	突発性発しん	0.35	8%減	0.38	1歳_52%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021年第10週まででインフルエンザのコメントを終了しました。

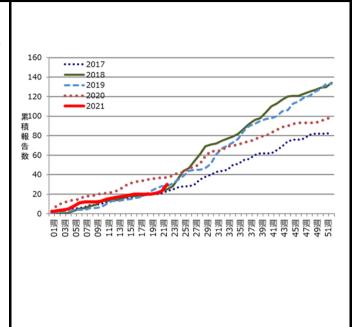
第22週のコメント

~レジオネラ症~ 2020年の報告数は99例でした。

全数把握感染症

レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (Legionella pneumophila) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症である。土壌や水環境に、普遍的に存在する菌である。人工環境(噴水等の水景施設、ビル屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等)や循環水を利用した風呂から発生したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染する。病型として肺炎型と一過性で自然に改善するポンティアック熱型がある。ヒトーヒト感染はない。健常者も罹患するが、細胞性免疫機能が低下している、乳幼児、高齢者など、喫煙者、大酒家は重篤化する可能性が高い。



<u>感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)</u> レジオネラ症とは(国立感染症研究所)

表 2. 大阪府全数報告数 (2021年 第22週5月31日~6月6日)

注意:この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。)

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報 告 数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数府内累積
4 類感染症	レジオネラ症(肺炎型)	7		1	1	1		1	1	2	30
	アメーバ赤痢	2				1				1	18
	ウイルス性肝炎	1								1	5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1						62
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	2				1				1	31
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1							2	43
	梅毒	7	1	1		2				3	269
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症 1,246 2020年1月以降累計 100,865										
結核	結核 新登録患者数:43名 (内 肺·喀痰塗抹陽性 17名)										
(2021年4月分)	(府内累積報告数 276名、内 肺·喀痰塗抹陽性 94名)										

(2021年6月8日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。